

北海道と言えば沢山紹介したい場所があります。今回は少しニッチになりますが牧場、サラブレッド、そうです競走馬です。

苫小牧からえりも町へ向かう太平洋側を下っていくと日高地区に到達します。日本で生まれたサラブレッドの98%が北海道産でそのうち80%が日高で生まれています。この地域は北海道内では温暖で降雪も少なく、平坦な地形で牧草を育てやすい条件であることからサラブレッドの牧場が多く、サラブレッド銀座と呼ばれています。今回サラブレッド銀座駐車公園から眺めて見ましたが放牧中の馬が少なかったです。

公園近くに道の駅サラブレッドロード新冠があります。こちらにレ・コード館があり、見学してみました。1989年頃に20世紀の偉大な文化遺産であるレコードを世界中からコレクションしようとなり、新冠町レ・コード館ができ、現在に至るそうです。

広場にはハイセイコー号の等身大馬像があります。それ以外にも日高の牧場で生まれ、活躍したサラブレッドのプレートも多数飾られており、競馬好きな方々は是非とも一度は訪れる事をお勧めします。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

2021年の世相を表す漢字に『金』が選ばれました。東京五輪・パラリンピックでの金メダルラッシュや、大リーグ大谷翔平選手のMVP獲得、ゴルフでも松山英樹選手の日本人初マスターズ制覇など各方面での金字塔、コロナでの給付金・支援金・新500円・新紙幣などお金にまつわることが理由とのこと。

『金』と知って真っ先に思い浮かんだ言葉はベンジャミン・フランクリンの『時は金なり(Time is money)』でした。今年もコロナ話は途絶えず、時間は常に平等で、ぼやぼやしているとあっという間に過ぎ去ってしまう。仕事に置き換えると機会損失してしまう。時間はお金と同じで有意義に使うこと、時間を損失することは利益を損失することと同じですよ。

今はリモートやオンラインなどで時短というメリットが生まれました。半面、温度感を感じ取れない、対面営業時のようなたわいもない話が少ないなど、非現実的な空間にやや戸惑っている所もありますね。これもまた時間や回数でこれが現実化され普通になってくるのかと思います。これまでのような営業活動が出来ない中、皆様からの多大なご支援・ご協力に、あらためて感謝申し上げます。ここにきて新たにオミクロン株が広がりがつあり、当面厳しい世情が続くかもしれませんが、これからもお仕事のお役に立てるよう引き続き尽力してまいります。

あらためまして、本年も一年ありがとうございました。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



～普段はガミガミ言ってるのに～

テレビカメラの前でこわばった笑顔で話す、先日そんな体験をする機会が上海でありました。ひょんなことから知人のご縁で上海電視台(上海テレビ)のある番組に出演することになりました。

『中国経済の2022年の展望を語る』、そんなテーマでしたらカッコいいのですが、実は『中日新視界』という番組の中で中国に住む日本人を紹介するコーナーへの出演でした。私の中国でのつたない体験談、そして暮らしに役立つワンポイント中国語を紹介する内容です。中国で眼鏡を買いに行く設定で私自身がお客と店員の二役、服を取り換えそれぞれのパートを撮影です。初めて入る中国のテレビ局ってどんな感じかと、最初は緊張しながら始まりましたが、司会のアナウンサー、スタッフの皆さんはやはりプロ集団、丁寧に手ほどきをいただき、無事に撮影終了です。

日曜日の夜に地上波で放送される番組で恥ずかしながら中国でテレビデビューをしたのでした。会社では普段はガミガミ言ってるのにカメラの前では表情が硬くなり、我ながらロボットのようにカチコチでした。

しばらくの間、社員や知人、行きつけの居酒屋などで、冷やかされてしまいましたが、楽しい体験ができました。

KHE(中国・蘇州)(総経理:山本 博史)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は焼き物の街、岐阜県土岐市にある元屋敷陶器窯跡を紹介いたします。

この窯跡は江戸時代初期の陶器窯跡で、岐阜県内では最古の連房式登窯です。この元屋敷陶器窯跡は、大窯3基(元屋敷1~3号窯)、連房式登窯1基(元屋敷窯)からなる古窯跡群です。

中でも元屋敷窯は昭和33年に発掘され、大きさが全長24m、幅2.2m、燃烧室・焼成室14房で、焼成室が地上に露出し、階段状に連なる構造から連房式登窯と呼ばれていて、江戸時代初期の慶長年間に陶祖と仰がれる加藤景延が、朝鮮半島由来の登り窯の形式を九州の唐津で学び、この地に築いたと考えられています。窯の天井は崩落しており、床面と壁の一部が残っており、窯跡は露出した状態を屋根で保護された形で展示されています。(江戸時代に作った古い窯が劣化はしているとはいえ、ほぼ形を留めて残っているのですね・・・)

また窯周辺では作業場や物原(ものばら:商品にならないキズ物の陶器の捨て場)も発見されていて、美濃焼初期の生産現場を考証する上で価値があることから国の史跡に指定された経緯があるようです。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

11月21日(日)、今年も『昭和レトロカー万博2021』が大坂舞洲で開催されました。昨年は12月下旬の曇天で非常に寒かったですが、今年は11月でも20℃くらいあり、この時期で屋外なのに上着が要らないくらい暖かい日で、なおかつコロナも落ち着いていて活気のあるイベントとなっております。

ネオクラシックと言われる1980年代が中心に古い車は60年代から90年代のクルマが総勢400台出展。クルマ好きが多い我々50代~60代を中心に若い人も多く来場。子供連れでの来場も多く、これでクルマに興味持ってもらおうと良いなと思いました。

ハコスカ、フェアレディZ、セリカXXなどは同じ車種が何台も並んでおり壮観。オーナーさんのクルマへの愛情がわかるのがボンネットを開け、エンジンルームがピカピカな事。ご年配の方がこのクルマはあーだったとか、このエンジンは吹き上がりか・・・とか、にこやかに談笑されているのを聞くと、こちらもうれしくなります。

現代は脱炭素、カーボンニュートラルが叫ばれておりますが、ガソリン車も歴史や文化として残ってほしいですね。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

日ごと寒さがしみる毎日となりました。これからの季節はコロナだけでなくインフルエンザも心配なので、更に注意が必要ですね。マスクの着用、手洗いうがいを徹底し、極力、密も避けた生活を心がけていかないとはいけませんね。皆様もより一層、感染予防をされお過ごしください。

さて、今回は福岡県筑紫野市の二日市温泉にある『大丸別荘』をご紹介します。ここ大丸別荘は、慶応、明治、大正、昭和、平成、令和と長く続いており、訪れた方は西田敏行さんや吉永小百合さんなど有名な方々や、昭和天皇も来られるほど由緒正しき老舗旅館です。当日はかなり肌寒い日でしたが、日帰り温泉を楽しむには最高の一日。昼食はプランに含まれていたため、とても上品なお料理を旅館内でゆっくりと頂きました。そのお食事が身の丈にあったかどうかはさておき、いざ大浴場へ。大浴場の近くにある日本庭園を見ながらいくと、なんと貸し切り状態です。浴槽のサイズはだいたい15人くらいは入れるスペースで、ガラス張りの外には先程の日本庭園が楽しめます。湯船に浸かり、外の景色を楽しみながら、日ごろの疲れを癒すことが出来ました。

帰りは、元号『令和』ゆかりの神社である、太宰府市の『坂本八幡宮』へ立ち寄り、身も心もきれいに帰宅しました。ラーメン、うどんばかりではなく、たまにはこんな休日もいいなと思った一日でした。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)

インドネシア政府はコロナの感染予防のため、年末年始の休日の移動制限を実施すると発表しました。久しぶりに家族旅行を計画している方も結構いるかと思います。ホテルは通常、年末の3~4週間前に予約しないと中々とれません。

ジャカルタから車で2時間ほどの距離にブンチャックという観光地があります。バンドン~ブンチャック間の渋滞を減らすために西ジャワ州知事は、半年前から日付によって車のナンバープレートの末番が偶数でないと通れない日、奇数でないと通れない日に分けるルールを作りました。もちろん市内の移動であれば奇数、偶数に関係なく車で移動して問題ありません。

年末の渋滞を避けるためにナンバープレート末番に合わせ、12月第1週に家族全員で1台の車でブンチャックに行きました。渋滞はあまりなく予定通り2時間ほどで目的地に着きました。家族と広い公園で遊んだり、美味しい食事を食べたりして楽しい週末を過ごしました。

しかし、帰りはホテルから出て5kmほどで大渋滞。政府の移動制限報道で年末旅行を早めた方が多かったのだと思います。ホテルを11時に出て、家に着いたのはなんと19時でした。行きの4倍もかかり、かなり疲れしました。子供たちはもう2度と行きたくないと言っていました。

KJI(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

早いもので2021年も残りわずかとなりました。残念ながらコロナ禍からの完全復活までは行きませんが、日本ではオリンピック開催などもあり、いつもとは違う年ではなかったでしょうか?最近では日本での感染者数が劇的に改善され、アメリカでもニュースになっています。

ここアメリカはというと相変わらず10万人程度で毎日新規感染者数が増えています。それでも新聞社の調査では70%以上のアメリカ国民がパンデミックは終わり、通常の生活に戻ったと感じているという結果がありました。確かに最近マスクを室内でも外している人を多く見ますし、テレビでどのスポーツを見ても観客はほとんどマスクをしていません。レストランも普通に営業し、日常生活は確かに通常に戻つつある気がします。さらにバイデン大統領の首席医療顧問を務める国立アレルギー感染症研究所のファウチ所長が、ワクチン接種が更に進展すれば感染が減少し、来年には『パンデミック』から『エンデミック』に移行するとの見解を示しました。

因みにこの『エンデミック』とは終結ではなく、一定地域での通常発生(?)という意味だそうです。多分通常のインフルエンザの流行の様な状態だと思われる。

『エンデミック』への移行を定義する特定の基準はないとの事ですが、ワクチンの追加接種が鍵になるとの見方を示し、全ての人が追加接種を受ける事が出来る様になればアメリカは2022年の春までに新型コロナウイルスを制御できると語っています。確かに政府機関で働く人や100人以上の企業に対するワクチン接種を義務化するなど対策を進めています。先日も追加接種に関して2回目接種から6か月以上経過した18歳以上に許可が出ています。

私自身も先日3回目の追加接種を終えました。さすがに副反応が出ましたが、文句は言えません。

ファウチ所長が言う通り来年こそパンデミックから脱出し、良い年になる様に願うばかりです。それでは皆様よいお年をお迎えください。

KCS(アメリカ)(COO:板垣 仁志)

今年も残すところあと少し、つい先日お正月を迎えたと思っていたのに、あっという間に年末です。忙しい仕事の日々や日常は、多くの人に時がとて早く過ぎゆくように感じさせます。

今年のクリスマスもコロナ禍なので世界中、慎重に準備が行われていました。建物、通り、ショッピングモールなどはクリスマスの飾りでいっぱいでした。その中で色々なクリスマスツリーを見ましたが、空瓶を木に見立てて作られたものを初めて見ました。そんな創造性を見るのはとても素晴らしいことです。シンプルなことかもしれませんが、ビックリさせますよね。

新年を迎えるにあたり、皆様の健康と安全を願っています。来年、コロナでさらに多くの課題や予測できない問題が発生するかもしれません。

そんなときのために、より良い準備をしましょう。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

私は、F1のエキサイティングな大詰めを見逃したくありませんでした。これはジェッタで行われた最後から2番目のレース。ナーバスなタイトル争いは論争に満ちた戦いでした。もちろん、私は応援しているマックス・フェルスタッペンがサウジアラビアGPでキャリア最初の王冠を手にするのを望んでいました。

クラッシュが多く、チャンピオンシップを争う2人が常にバトルするレースでした。フェルスタッペンとハミルトンの間で衝突があり、その結果、フェルスタッペンは当局からペナルティを課せられました。お互いライバルに対し、不満を漏らしていました。フェルスタッペンのチームは彼を免罪する証拠を収集し、ハミルトンは罰せられるべきだと主張しています。この奇妙なサウジアラビアGPは間違いなく歴史に残り、これまでで最も物議を醸したF1レースの1つとなるでしょう。

両ドライバーがポイントで並び、アブダビGPでは、壮絶な決勝戦が待っていました。アブダビでの決勝レース、フェルスタッペンが初の世界チャンピオンになったことに私はとても興奮しました。

KIO(オランダ)(Marvin de Laat)